

SHIMANTO

1

四万十町通信 2026.VOL.238

JANUARY



特集

町産材が叶える安心とぬくもりの暮らし

林業でつなぐ未来

写真 | とおわ守人企業組合の皆さん



林業でつなぐ未来

町の約9割を占め、優良な四万十ヒノキを育ててきた山林は、先人たちが未来へとつないできた財産です。しかし今、木材価格の低迷により、かつての豊かな山の恩恵が見えなくなったことで、山林への関心が薄れ、手入れされない未整備林が増加しています。

この豊かな山の恵みを未来へつなぐ鍵は、私たち一人一人の「関心」です。

山を守り未来へつなぐ林業従事者の想い、そして山が持つ多面的な機能。それらを守り、生かすことが、安心・安全な未来への「投資」であることを本特集で見つめ直します。

関心の薄れが招く、未整備林の増加

この町の林野面積は約87%を占め、ほんのり桃色で撥水性に優れている四万十ヒノキの産地として、古くから知られてきました。

戦後の大規模な植林から50年以上が経過し、町の山林の多くが伐期を迎える中、戸建て住宅の減少や輸入材の影響などにより木材価格は低迷しています。

その結果、森林整備への関心は薄れ、適正な間伐が停滞する厳しい状況となっています。親世代から引き継いだ山林をどうしたらいいかわからず、「手放したい」という相談があるなど、未整備林が増えつつあります。

この関心の薄れは、町の森林資源の衰退だけでなく、地球温暖化や土砂災害のリスクを招くことから、計画的・継続的な森林整備が喫緊の課題となっています。

官民一体で、未来へつなぐ森づくり

この現状を打開するため、町は動き出しています。低コストで長持ちする「四万十式作業路」を活用し、間伐材をトラックで運び出し、販売して収益を上げる搬出間伐を推進。持続可能な循環型の森づくりは、環境先進企業からも注目され、官民協同で豊かな森づくりを行っています。

さらに、町産材活用への助成や木育事業を推進し、幼少期から木への親しみを育んでいます。また森林環境譲与税も積極的に活用した施策を通じ、森林整備から産業振興、山の多面的機能の向上を図り、町民の安心・安全な暮らしの確保に取り組んでいます。

山を守り 未来を育む

木を伐り、苗を植える未来への投資

この町の広大な森林を、未来へとつなぐ「守り人たち」がいます。彼らは大自然を相手に、20mを超えるヒノキやスギを伐採することもあれば、40cm位に育ったヒノキの苗を、何万本と植えることもあります。

先人たちが長い歳月をかけ、山を育てた想いを引き継ぎ、次の世代へ安全で豊かな暮らしを届けるため、山を手入れし光を入れます。

その強い使命感が、山を守りこの町の未来を導き育んでいます。

守り人たちの未来へつなぐ想い。



窪川林産企業組合
代表理事/横山 真司さん(替坂本)

山を守ることは、地域を守ること

昔の人が植林した山を、次の世代が受け継ぐためには、山を健全な状態にすることが大切です。適切に管理することで、山の維持が容易になり、災害リスクも減少します。

20年近く山に携わり、「山の仕事は地域を守ることに繋がっている」と、感じるようになってきました。

だからこそ、山に配慮し丁寧な作業を心掛けています。自信と誇りを持って仕事をしていると言えるように、今後も山と向き合っていきます。



森杜林産組合
代表/林 幸一さん(大正中津川)

あと3代かける理想の山づくり

自然は嘘をつきません。木は素直で、間伐すればちゃんと育ててくれます。それだけ山には、手入れするだけの価値があります。

私たちの役割は、先祖から受け継いだ山を、次の代、またその次の代へとつなぐことです。

最終的には、針葉樹と広葉樹が混在する昔の天然林に近づきたいです。そのためには10年単位で間伐を続け、あと3代は年月が必要。理想の山をつくる想いを、また次へと託します。



とおわ守人 企業組合
専務/酒井 龍一さん(地吉)

町の暮らしに役立つヒノキに

子どもの誕生を機に、町外での林業経験を地元の山のために役立てたいと思い、戻ってきました。自然相手の厳しい仕事ですが、山を次世代につなぐ再生林に大きなやりがいを感じます。

十数年前に植えたヒノキが、今は自分の身長を超えて育っているのを見ることがうれしくなります。30年後には立派に育って、私たちの暮らしの中で有効に活用されていたらいいですね。

そして身近にある山や木に、関心を持つ人が増えることを願います。



漁業



四万十川上流淡水漁業協同組合
組合員／山脇 陳男さん

1/100でも他の環境に想いをはせれば

荒れた山は、濁った水を一気に川に流します。昔と比べ、川の水生生物が減りました。彼らのエサや隠れ家となる、クヌギやナラなどの落葉樹の落ち葉が減っているからです。落葉樹の葉は、山の腐葉土となり保水力を高めます。

川で漁をするには、川よりも山が大事。自然へのわずかな配慮と思いやりがあれば、山と川の関係も良い方向に向かいます。

防災



四万十清流消防署
隊長／野坂 洋一さん

主要道路の寸断は救急活動の危機

山の荒廃は、土砂災害の危険性を高めます。もし人家近くで発生すれば、大惨事になりかねません。また、主要道路が土砂で寸断されると、救急車などの緊急車両が迂回を余儀なくされます。現場到着が遅れることで、結果として救える命を失う事態も起こりえます。

山を健全に管理する林業従事者には、心から感謝しています。

見落とされがちな

山の

多

面的

機能



四万十町森林組合
企画・営業部長／武政 純也さん

山を未来へ、人の手で循環させる使命!

昔の人が育てた人工林は、人が手入れを続けないと荒廃し、回復は難しくなります。木材価格の低迷や管理面の不安もあり、山を手放したいという方もいますが、今は山の整備に対する手厚い補助制度もあります。

整備した山は光の入り方が全く違います。伐採と植林を繰り返す、未来へ山を循環させていくことが私たちの使命です。



北ノ川小学校
校長／藤原 良仁さん

地域の自然をすべて生かす学び

普段、山に入らない子どもたちにとって、間伐や植樹の体験は大きな力になります。最初は戸惑いますが、「邪魔な木を切っていい」理由が分かると、積極的に作業し始めます。

海の恵みも山があるから。すべての自然が繋がっていることに気がきます。見て、触れて、感じる体験こそ、これからの時代を生き抜く「生きた力」となり、郷土愛を育むきっかけとなります。

山が育む命、未来へつなぐ恵み

日々の暮らしに追われ、将来への不安も尽きない現代。だからこそ、新年の初めに少し山に目を向けてみませんか。山が育む命や恵みは、私たちや子どもたちの未来を支えています。

この特集が、数十年後の未来を想像し、山に関心を持つ確かなきっかけとなることを願います。

お問い合わせ先 / 農林水産課 22-3113

森

林

令和3年度、森林環境譲与税を活用し協同組合高幡木材センター「しまんと製材工場」(東大奈路)が完成。最新の機械整備により、生産性を大幅に高めました。

最新機械で
高品質な製材品へ



協同組合高幡木材センター
しまんと製材工場
代表理事／伊藤 訓新さん

守り人たちが搬出した丸太は、シャーンという製材音と共に正確に製材されます。工場に漂う深い木の香り。四万十ヒノキのほんのり桃色の木肌は、最高の品質を示し、中部・関東地方へ、そして町内の私たちの元へ届けられます。

山を「見せない」住宅が増えるなど、変化する時代やニーズに 대응する製材品を届けるため、販路拡大に尽力しています。特にJAS認証製材品の需要が高い公共施設や商業施設などの非住宅分野に注目しています。県内で認証製材品を大量生産できるのは当社だけです。

山の恵みが

ぬくもり に変わる

時代に沿った製品を

山の資源を有効利用し、消費者に届けるのが私たちの使命です。四万十ヒノキは、色味と強度で市場評価は高いですが、今は価格競争の時代。必ずしも高品質な材が高値で売れるわけではありません。

木のぬくもりを暮らしに



暮らしの場にある町産材のぬくもりは、子どもたちの成長と共にあります。



四万十ヒノキで家を建てた
林 千紘さんご一家(北琴平町)

町産材が叶える安心とぬくもり

温かみが違いますし、木に囲まれていると、とても落ち着きます。完成から3年、床や天井の色が変わり、愛おしさが増しています。遊びに来た人も「木のいい香りがするね」と喜んでくれます。

町の補助制度も活用でき、とても助かりました。長男と同じ年の家。子どもの成長と共に、この家の味わいを楽しんでいきたいです。



四万十ヒノキの机で勉強する
米奥小学校 1・2年生の皆さん

木に包まれた学校生活の価値

- 1年生 佐竹 楓さん(後列左) 「ツルツルで気持ちいいし、木の机だと集中できる」
- 1年生 吉本 蓮さん(後列右) 「机もイスも木だけでできていてすごい!」
- 2年生 田村 知瑛さん(前列左) 「木のイスは、冬に座っても冷たくないよ」
- 2年生 竹内 心都さん(前列右) 「木の模様が全部違っておもしろい。6年生まで大切に使いたい!」



町木育事業で新生児に木製玩具を
リトルエメラルド 川崎 剛史さん(奈路)

将来、木に興味を持つきっかけに!

ヒノキ、スギ、クリ、カシなどたくさんの町産材を使って制作しています。木は樹種で色や重さ、木目も違って個性があります。保護者も一緒に触れて楽しんでほしいですね。

大きくなってこのおもちゃを見たとき、木に触れて遊んでいたことを思い出して、木に興味を持つきっかけになってくれればうれしいです。



「四万十よんでんの森」ふれあい活動に参加した皆さん

児童が「よんでんの森」で森林保全活動

北ノ川小学校3・4年生の児童を対象に、令和7年11月20日、瀬里地区で森林の大切さを学ぶ体験授業が行われました。

県や町と協定を締結している四国電力株式会社が、児童を招いて行う「四万十よんでんの森」ふれあい活動の一環です。

児童たちは、雑木の伐採や植樹作業を町職員や四国電力の方から教わりながら、普段できない体験に終始目を輝かせ楽しそうに取り組んでいました。

植樹したモミジの木には、児童が描いたプレートが取り付けられ、「きれいに大きく育てほしい」と願いが込められました。

四万十ポークの肉質、4部門で評価！

「第24回高知県豚枝肉共進会」が令和7年11月20日から22日の間、四万十市で開催されました。肉豚の肥育技術の確立と枝肉の肉質向上を目的に毎年開催しており、県内から110頭の出品がありました。

「雌の部」では農事組合法人平野協同畜産が、「雄の部」では有限会社渡辺畜産が、最優秀賞および優秀賞を受賞しました。

また、グランドチャンピオンには平野協同畜産が選出され、見事農林水産大臣賞を受賞しました。全6部門中、4部門を町内養豚農家が受賞し「四万十ポーク」の肉質の良さを証明しました。



平野協同畜産の皆さん(左)と渡辺隆造さん(右)



夜空の下、沈下橋を彩る2,500個のやさしい光

幻想的！若井沈下橋キャンドルナイト

若井沈下橋と周辺の河原をLEDキャンドルでライトアップするイベントが、令和7年11月22日に開催されました。高知大学の学生団体、四万十かっぱ組が主催したもので「四万十銀河～川のおまのがわ～」と題し、初めて行われたものです。

会場には、海洋堂かっぱ館の木彫りの河童が怪しげにともされるなど、神秘的な空間が広がっていました。

町内外から多くの見物客が訪れ、普段見られない四万十川の光景に魅了されていました。学生たちにとっても達成感を噛み締めたイベントとなったようです。

活気あふれる「西部地区産業祭」

「第17回西部地区産業祭」が令和7年11月23日、旧昭和小学校で開催されました。当日は天候にも恵まれ、餅投げのほか、多数の飲食ブースの出店、林業機械の実演や体験会なども行われ、多くの人でにぎわいました。

今年も58点の出品があった農林水産物等品評会では、芝岩雄さん(十川)のユズ、東信文さん(地吉)の生椎茸が、最優秀賞に選出されました。また恒例のジャンボカボチャコンテストには49点の出品があり、47.0kgのカボチャを出品した山部洋平さん(榊山町)が一位となりました。



丹精込めて育てられた農林水産物の展示



4部1位【岩崎・渡辺ペア】(右)と2位【羽屋戸・松井ペア】(左)

白熱ラリー！町内バドミントン大会

「四万十町バドミントン大会」が令和7年11月2日、窪川B&G海洋センターで開催されました。

町内からは8名(5ペア)が出場し、4つの部に分かれて行われた試合では、選手たちが白熱したラリーで会場を盛り上げていました。町内チームの結果は以下のとおりです。

【町内チームの大会結果】

1部	3位	川村・川村ペア(窪川蒲公英)	4部	3位	松本・碓井ペア(チームしまんと)
4部	1位	岩崎・渡辺ペア(チームしまんと)	4部	4位	中越・中平ペア(窪川高校バドミントン部)
4部	2位	羽屋戸・松井ペア(窪川高校バドミントン部)			



喜びのトロフィーを持つ娘さんと最高の笑顔の堅田さん

快挙！町内和牛肥育農家が2冠達成

「第7回JA高知県肉牛枝肉共励会」が令和7年11月14日から17日の間、高知市で開催されました。この共励会は県内の和牛肥育農家の技術確立と枝肉の肉質向上を目的に開催しているもので、今回は県内から全28頭が出品されました。

その内、「黒毛和種」と「褐毛和種」の2部門で、堅田雅仁さん(与津地)が最高賞である高知県知事賞を受賞しました。

堅田さんは「20年近く続けてきて、2部門受賞は初めての経験です。大変やりがいを感じています」と笑顔で喜びを語ってくれました。



防災対策の啓発に意気込む参加者の皆さん

震度7体験！女性防火クラブが合同研修

大正、十和地域の女性防火クラブ11名が令和7年11月15日、香川県防災センターで合同視察研修を行いました。

災害対策の知識や技術の向上を目的に定期的に行っているもので、今回は施設内で、震度7の地震の揺れや風速30mの暴風、また映像型の消火訓練などを体験しました。参加者は、改めて家具固定などの事前対策の必要性や初期消火の重要性を学んでいました。「今後も訓練や研修を重ね、災害対策の知識や技術を身に付け、地域の防火・防災の啓発に努めていきたい」と意気込んでいました。



受賞の喜びを語ったカゴノオの前成照さん(右)

カゴノオト、シューレーンが受賞

ドイツ発祥の伝統菓子シューレーンなどを町内で製造販売する菓子店「カゴノオト」が、この度、PRTIMES社主催の「プレスリリースアワード101選」に選出、また農林水産省主催の「FOOD SHIFTセレクション2025」では優秀賞を受賞しました。

令和7年11月17日には、代表の前成照さんが町役場を訪れ、中尾町長に受賞を報告しました。今回の受賞は、前さんが生産者と密に連携し、その思いや課題に真摯に向き合い、そして素材を最大限に生かした製品づくりが評価されたものです。



令和7年 12月
**四万十町議会
 定例会**
 町長行政報告



「神」JAZZで演奏する四万十高校音楽部の皆さん

先の9月議会でもご報告しましたように、県は本年3月に県立高等学校振興再編計画を策定し、窪川高校については「入学生徒数41人以上、地元中学校からの進学割合50%以上」という努力目標を設定しました。

この目標の達成に向けて、学校と町、地域が連携し、アクションプランを策定・実行のうえ、学校の魅力化・特色化を一層推進していくこととされています。

県立高等学校の振興策

本町の今後の児童生徒数の推移などを考えると、現状のまま目標を達成することは非常に厳しい状況にあることから、学校側と協議を行い、窪川高校においても四万十高校と同様に、町外からの入学者確保に連携して取り組むこととしました。

その中で、町外からの入学者を積極的に確保するため、本年度から新たに始まったフロンティア募集という入試制度を導入するとともに、部活動の活性化策の一環として高校野球部の復活に向けた協議を進め、10月24日に窪川高校野球部後援会準備会の設立に至ったところです。

野球部後援会準備会の役割としては、野球部再発足に向けて一定の経費が見込まれるため、地域全体で物心両面にわたり支援することを目的としています。

なお、この準備会は野球部の正式発足と同時に後援会に移行する予定としています。

今後は、町外からの入学者の住環境や、野球部の活動開始に向けた環境整備を行っていくこととなりますが、既に野球部の支援を目的に町に対し企業版ふるさと納税をしていただいた企業があるなど



韓国との交流事業に参加した窪川高校の生徒たち

町外からもこの取り組みを支援する動きが高まっています。

町としても、令和9年度までの前期計画期間が、地元高校の将来を左右する極めて重要な期間であると強く認識しています。このため、危機感を持って取り組むとともに、地域全体で応援の意識を醸成しながら、アクションプランの着実な実行を通じて、さらなる魅力化を目指していきます。

地元高校の今後の歩みは、まさに「町の未来」そのものです。何よりも地域の皆さまのご理解とご協力があったこそ、若者が集い、育ち、地域が元気になるものと考えておりますので、ご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。



災害発生時の被災者支援に備える参加者

災害に備え重機操作を学ぶ実践研修

災害現場での重機操作や支援方法を学ぶ研修を、令和7年11月26日から27日の2日間、金上野地区の町有地で実施しました。

この研修は、令和5年度に（公財）B&G財団と「防災拠点の設置および災害時相互支援体制構築」に係る協定を締結したことをきっかけに、町職員や消防署員などを対象に毎年実施しています。

講師には、現在も能登半島地震などの被災地で支援を行っている災害ボランティアの方をお招きし、バックホウでの土砂の撤去方法や流木の掴み方、ダンプへの積込方法などを学びました。



教室に参加した子どもたちと指導者の皆さん

全10回達成！バドミントン教室終了

くぼかわスポーツクラブ主催の「四万十町バドミントン教室」が、令和7年11月27日に全10回の日程を終え、終了式が行われました。

今年は町内の小学5年生から中学3年生までの13名が参加し、基礎練習からゲーム形式に至る一連の技術の取得に取り組みました。回を重ねるごとに技術が向上した参加者たちは、最終日にはこれまでの練習の成果を、ダブルスの試合で存分に発揮していました。上手くできて喜んだり、失敗して悔しがったり、バドミントン教室での体験を通して成長した子どもたちでした。



列車内でサクソフォンを演奏する上野耕平さん（撮影：坪内政美）

予土線で味わう旅するコンサート列車

予土線を舞台に、秋の美しい景色と音楽を楽しむ「予土線コンサート列車」が、令和7年11月30日に運行されました。予土線利用促進対策協議会が初めて企画したもので、サクソフォン奏者の上野耕平さんと鉄道アナウンサーの久野知美さんを迎え、軽快なトークと生演奏で車内は特別な一体感に包まれました。

車窓から眺める美しい景色とすぐ目の前で奏でられる演奏に、参加者からは「ここでしか味わえない特別な体験ができた」との声が聞かれました。予土線と沿線地域の魅力を感じられる特別な空間となりました。



豪快に半尾の伊勢海老が入ったエビ汁

惜しまれつつ終幕！ふるさと祭り25年

志和地区の新鮮な魚介類を味わえる「志和ふるさとまつり」が令和7年11月30日、志和漁港周辺で開催されました。

25年ほど前に始まったこの祭りも、地域の高齢化により今年が最後の開催となりました。会場には夜明け前から並ぶお客さんの姿があるなど、多くの家族連れなどでにぎわいました。毎年大人気の伊勢海老汁やすり身入り天ぷらは早々に完売。

祭りの最後にはくじ入り餅投げが行われ、住民が一丸となって取り組んできた志和ならではの祭りは、惜しまれつつも大盛況のうちに幕を閉じました。

冬の感染症予防対策

冬は風邪、インフルエンザやノロウイルスなど感染症の流行しやすい季節です。感染症の種類は色々ありますが、基本的な予防対策は同じです。きちんと予防することで元気に過ごしましょう。

感染症にかからないためにどうすればいいの？

1. 感染経路を断つ

「飛沫感染」・「接触感染」を防ぐために「こまめな手洗い」が一番の基本！色々な場所に触れることで、知らないうちに手にウイルスなどが付き、自分や周りの人への感染原因になることがあります。どんな感染症でも重要な予防策の基本は「こまめな手洗い」です。せっけんを使って洗いましょう。



「咳エチケット」
が大切！

「咳エチケット」とは、自分の咳やくしゃみの飛沫で周囲の方に感染させないために、マスクやハンカチなどを使って、口や鼻をおさえることです。咳などの症状があるときは「咳エチケット」を心掛けましょう。



2. 免疫力を高める

免疫力が弱まっていると感染しやすくなります。また、感染した時に症状が重くなってしまう恐れがあります。普段から十分な睡眠とバランスの良い食事を心がけ、免疫力を高めておきましょう。



お問い合わせ先 健康福祉課 ☎22-3115

お薬との飲み合わせ、大丈夫？

ドラッグストアなどでは、さまざまな健康食品やサプリメントが販売されています。栄養補給や健康維持のためにサプリメントなどを使用されている方が増えている一方、病院での処方薬と一緒に飲んでもよいのかな？などと疑問を持つ方もいるのではないのでしょうか。

薬の飲み合わせと同じように、サプリメントと薬の飲み合わせにも注意が必要です。飲み合わせによっては、薬の作用が強くなったり、弱くなったり、副作用が出やすくなることもあります。

薬局では、処方薬とサプリメントなどの飲み合わせを確認することができます。サプリメントなどを使用されている方は、薬剤師に相談しましょう。



無料健康相談日

1月は18日(日)、25日(日)です。

2月は1日(日)です。

どうぞ、お気軽にご相談ください。

【お問い合わせ先】
調剤薬局技術センター
薬剤師 渡辺 明宏 ☎22-1000

子育て通信

内容	日時	場所	お問い合わせ
赤ちゃん相談	1月13日(火)	9:30~11:30	大正地域子育て支援センター 大正町民生活課 ☎27-0112
	2月4日(水)	10:00~12:00	窪川地域子育て支援センター
4・7か月児健診	1月14日(水)	対象者に個別通知 窪川地域子育て支援センター	健康福祉課 ☎22-3115
3歳6か月児健診	1月21日(水)		

女性は閉経を迎えるとカルシウム不足が顕著に

食事から摂取したカルシウムは、十二指腸や小腸といった腸管から体内に取り込まれます。腸管でのカルシウム吸収率は、十二指腸や小腸の入り口部分である空腸が最も高いといわれています。それでも吸収しきれなかったカルシウムは、その先の回腸でしみ込むように吸収されます。こうした腸管での吸収率は、乳幼児で65~75%、成人で30~40%、さらに年齢が上がりシニア世代ではガクッと低下し20%台まで落ち込んでしまうといわれています。



からだに
いいはなし

吸収率低下の原因は胃液やホルモンの変化

年齢が上がるとカルシウムの吸収率が低下するのは、食物をカルシウムに分解するために必要な胃液が年齢とともに少なくなる上に、胃液の酸性度が弱まり消化が進みにくくなるためです。また、カルシウムを血液に輸送する腸管粘膜の機能の低下や、カルシウム吸収率を促すビタミンDの効果が発揮されないなどが原因となります。

特に女性は50歳前後に閉経を迎えると、卵胞ホルモンの分泌が急速に低下するためカルシウム不足が目立つようになります。卵胞ホルモンは、腸管でのカルシウム吸収に役立つようにビタミンDの性質を変えたり、骨をつくる細胞を助ける働きをしています。

また、骨を破壊する細胞や、その働きを助けるホルモンを抑える作用をします。この卵胞ホルモンの量が、閉経期を境にそれまでの10分の1以下に激減することで、50代を過ぎると全骨量に対して年間3%近いペースで骨量の減少が進んでしまいます。健康診断などで骨密度を測る機会がある方は少ないと思いますが、骨も確実に変化しています。

大正診療所にも短時間で正確に骨密度が測定できる機器を備えております。気になる方は受付までお声掛けください。お待ちしております。



知ってほしい！年齢と共に
低下するカルシウムの吸収率



四万十町国保大正診療所 山本翔平 大川剛史

不法投棄をしない！させない！

ごみを適正に処理せず、道路や山林、空き地などに捨てる行為は、不法投棄です。

不法投棄は「廃棄物の処理および清掃に関する法律」違反となり、**違反者には5年以下の懲役もしくは、1,000万円(法人は3億円)以下の罰金、場合によっては両方が科せられます。**



不法投棄を発見したら！

- ①発見日時 ②発見場所 ③不法投棄者の特徴
④車種・車両ナンバー ⑤投棄物の内容を
分かる範囲で確認し、警察へ通報しましょう！

❗不法投棄を見かけても、一人で注意するのは危険です。まずは安全を確保し、通報してください。

看板を設置したい！

不法投棄がひどい場所で区長から要望があった場合は、無料で啓発看板をお渡ししています。

不法投棄を「しない」「させない」をモットーに町民全員で不法投棄の防止に取り組みましょう。

自分の土地を守りましょう！

不法投棄した者が判明しない場合は、土地所有者(管理者)がその撤去費用などを負担しなければなりません。自己所有地への不法投棄を防ぐために、日頃から適切に管理を行いましょう。

こんな場所には捨てにくい

- 草刈りがきちんとされている
- 柵を設置している
- 定期的に人が来ている

無許可の不用品回収業者に注意！

「無料で回収します」「家電、鉄くず、不要な物は何でもOK」などと広報して、空き地やトラックなどを利用して不用品回収をしている業者のほとんどが無許可の違法回収業者です。安易に処理を依頼すると、思わぬトラブルに巻き込まれたり、不法投棄の原因になりますのでご注意ください。



事例①

「不用になった家電品を無料で処分する」と拡声器で呼びかける軽トラックが通ったので処分を頼んだら、無料のはずが高額な処分費用を請求された。

※家電リサイクル法対象製品(テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機、エアコン)は、指定の業者・家電小売店にリサイクル料を支払って処分しましょう。

事例②

「不用品を何でも買い取る」という電話があり、不要な衣類の買い取りをお願いしたら、訪れた際に衣類以外のアクセサリなど貴金属を出すように求められた。

【お問い合わせ先】
環境水道課 ☎22-3119
大正町民生活課 ☎27-0112
十和町民生活課 ☎28-5112
不法投棄を発見した場合
窪川警察署 ☎22-0110

○休日在宅当番医

月日	医院名	電話番号
1月 18(日)	くぼかわ病院	☎22-1111
月 25(日)		
2月 1(日)		
2月 8(日)		
2月 11(水)		

❗休日水道修理当番は窪川地域のみです。
大正・十和地域の方は各地域振興局にお問い合わせください。
大正 地域振興課 ☎27-0111
十和 地域振興課 ☎28-5111

○休日水道修理当番

月日	業者名	電話番号
1月 17(土)	岩本商店	☎22-2716
1月 18(日)	日化住宅機器	☎22-0407
1月 24(土)	宮脇水道	☎22-1581
1月 25(日)	高橋設備	☎22-0662
1月 31(土)	桑原水道	☎22-1163
2月 1(日)	横山水道設備	☎22-3608
2月 7(土)	岩本商店	☎22-2716
2月 8(日)	日化住宅機器	☎22-0407
2月 11(水)	宮脇水道	☎22-1581



○無料相談 (秘密厳守です。)

月日	時間	地域	場所	電話番号
2月 4(水)	10:00~15:00	窪川	農村環境改善センター 2階 第1会議室	町民課 ☎22-3117
		大正	大正地域振興局 2階 小会議室	大正町民生活課 ☎27-0112
		十和	コミュニティセンターとおわ	十和町民生活課 ☎28-5112

1日行政相談 【窪川】行政相談員 森 英真【大正・十和】行政相談員 山本 安弘

1月 13(火)	10:00~15:00	窪川	農村環境改善センター 2階 第2・3会議室	総務課 ☎22-3111
2月 10(火)	10:00~15:00	窪川	農村環境改善センター 2階 第1会議室	総務課 ☎22-3111
2月 12(木)	10:00~12:00	大正	大正地域振興局 2階 小会議室	大正地域振興課 ☎27-0111
	13:00~15:00	十和	十和地域振興局 2階 第2会議室	十和地域振興課 ☎28-5111

令和7年度 入札結果(令和7年11月実施分)について

入札結果は、町ホームページにて確認することができます。また、右の二次元コードから読み込むことも可能です。



昭和57年~昭和59年製のトヨタ石油ファンヒーターを探しています

上記期間に製造された製品には、現在、取り付けが義務化されている安全装置が装着されておりません。誤った使用方法により、事故が起こる可能性があるため、1986年(昭和61年)より自主交換を行っております。

LCR-3タイプ	LS系タイプ	対象機種	ご連絡先
		LCR-3・LCR-3-1・LS-3・LS-3-1・LS-6	株式会社トヨタ ☎467-0855 名古屋瑞穂区桃園町5番17号 フリーコール 0120-104-154

※現在の石油ファンヒーターはPSCで定められた安全装置が全機種についております。

「十和高齢者施設に関する条例・規則」の一部改正に関わる意見公募

募集

十和高齢者施設の運営見直しのため、「四万十町十和高齢者生活福祉センター及び生活支援ハウス条例」および「同管理規則」の一部改正を行いますので、町民の皆さまからのご意見を募集します。

●意見公募の案件名

四万十町十和高齢者生活福祉センター及び生活支援ハウス条例および同管理規則の一部改正(案)

●意見公募期間

1月15日(木)～2月5日(木)

●資料の閲覧方法

(1)閲覧所での閲覧

- ①本庁1階閲覧所
- ②大正地域振興局1階閲覧所
- ③十和地域振興局1階閲覧所
- ④興津出張所閲覧所

(2)町ホームページでの閲覧

●意見の提出方法

(1)意見箱による投函

(2)郵送の場合

〒786-0504 四万十町十川145番地3
四万十町十和地域振興局 町民生活課 宛

(3)FAXの場合 ☎28-5555

(4)直接提出する場合

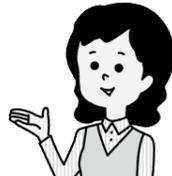
十和町民生活課へお越しください

(5)電子メールの場合

302000@town.shimanto.lg.jp



四万十町HP



お問い合わせ先 十和町民生活課 ☎28-5112

「四万十町過疎地域持続的発展計画」の策定に関わる意見公募

募集

町では、令和3年4月1日に施行された「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」に基づき、過疎対策事業債等財政上の支援措置を受けるため、「四万十町過疎地域持続的発展計画」を策定しています。現在の計画が令和7年度末で終了するため、令和8年度からの5年間で計画期間とする新たな計画案をまとめましたので、町民の皆さまからのご意見を募集します。

●意見公募の案件名

四万十町過疎地域持続的発展計画(案)

●意見公募期間

1月13日(火)～2月3日(火)

●資料の閲覧方法

(1)閲覧所での閲覧

- ①本庁1階閲覧所
- ②大正地域振興局1階閲覧所
- ③十和地域振興局1階閲覧所
- ④興津出張所閲覧所

(2)町ホームページでの閲覧

●意見の提出方法

(1)意見箱による投函

(2)郵送の場合 〒786-8501

四万十町琴平町16-17

四万十町役場 企画課宛

(3)FAXの場合 ☎22-3123

(4)直接提出する場合

役場企画課へお越しください

(5)電子メールの場合

103080@town.shimanto.lg.jp



四万十町HP

お問い合わせ先 企画課 ☎22-3124

町営住宅入居者募集

募集

●募集住宅

団地名	間取り	募集戸数
金上野団地(公営)	3LDK	1戸
金上野団地(公営)	1DK	1戸
大正土庫第4団地(公営)	3DK	1戸

●申込期限 1月30日(金)必着

お問い合わせ先 建設課 ☎22-3120

●必要書類 入居申込書・住民票・完納証明・納付状況調査同意書・所得を証明する書類など

●その他 ①申し込みは、1回の募集において1世帯につき1通に限ります。

②入居資格、申込方法などについては建設課までお問い合わせください。

●申込書配布場所

建設課、大正・十和地域振興局、興津出張所

万博で活躍したヒノキベンチが町に帰還

お知らせ

「大阪・関西万博」会場に、森林環境譲与税を活用し、町産材で製作したベンチ3基を設置していました。

これは町のPRと、良質な町産材の魅力を発信することを目的とした取り組みです。

万博の終了に伴い、この「四万十ヒノキ材ベンチ」を、町内の3か所に再設置しました。木の香り漂う四万十ヒノキのベンチにゆっくり腰かけ、その温もりに触れてみてください。

設置場所

- ①役場本庁西庁舎 1階 ふれあいホール
- ②役場大正地域振興局 3階 図書館内
- ③道の駅四万十とおわ

※②大正地域振興局の図書館に設置しているベンチは、四万十高校の生徒の皆さんとワークショップを実施して製作したものです。

※この事業は、協働の森事業で協定を締結しているコクヨ株式会社と連携し実施したものです。



②大正地域振興局 図書館



①本庁西庁舎 1階



③道の駅 四万十とおわ

お問い合わせ先 農林水産課 ☎22-3113

福祉タクシー・バス利用券のご利用はお早めに!

お知らせ

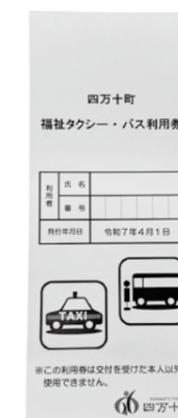
令和8年度からの福祉タクシー・バス利用券(以下、利用券)は、前年度の利用実績に応じて交付します。

これまで
利用実績に関わらず対象者全員に交付
令和8年度分
令和7年4月から令和8年2月末までに利用券を使用した方へ交付

利用券の利用可能期間は令和8年3月末までですが、2月末までに一度も利用がなかった方には、令和8年度分の交付は行いません。

※令和8年度中に80歳に到達する方は、利用実績に関わらず交付します。

※交付がなかった方も、申請すれば発行できます。必要時にご相談ください。



お問い合わせ先 高齢者支援課 ☎22-3900

JR土讃線2月「日中時間帯集中工事」に伴う一部運休

お知らせ

JR四国では保守工事のため、土讃線高知駅から窪川駅間において、下記の平日5日間の日中時間帯に列車を運休します。

運休となるのは、高知駅から窪川駅間の特急列車と、須崎駅から窪川駅間の普通列車です。なお、運休となる特急列車に対しては、バスによる代行輸送を行いますので、ご利用の際はご注意ください。詳しくは、JR四国ホームページをご確認ください。

●運休日 2月9日(月)、10日(火)、12日(木)、16日(月)、17日(火)

●運休時間 9:30頃～15:30頃



JR四国HP

お問い合わせ先

JR四国電話案内センター
☎0570-00-4592

令和8年度 四万十町奨学金制度のご案内

四万十町では、経済的な理由などで就学することが困難な方の勉学を支援するため、奨学金を貸し付ける制度を設けています。この奨学金については、高等学校、特別支援学校の高等部、大学、短期大学、高等専門学校または専修学校に在学し、下記の要件すべてに該当する方(奨学生)が対象となります。

- (1)奨学生またはその保護者のどちらかが、四万十町に住所を有する方
- (2)経済的な理由により就学が困難な方
- (3)向学心が旺盛な方
- (4)資金の返還が確実と認められる方(連帯保証人が2人必要です)
- (5)他の奨学金などを受給していない方

(注)▶希望者が多い場合は、審査により貸し付けできないことがあります。
▶貸し付けの決定に必要な事項について、関係機関で調査する場合があります。

貸付額(予定)は下記に定める額が上限となります。

区分	種類	金額(上限)
大学など 専修学校(専門課程)	入学支度金	50,000円
	就学資金	月額50,000円
高等学校など 高等専門学校 専修学校(高等課程)	入学支度金	50,000円
	就学資金	月額15,000円
	※通学費	月額25,000円
	※下宿費	月額25,000円

※通学費または下宿費はどちらか一方のみとなります。

世帯の収入が基準額以下である世帯が対象となります。
(詳しくはお問い合わせください)

区分	給与・年金収入の場合	給与・年金収入以外の場合
	収入基準額	所得基準額
2人世帯	3,020,000円	1,934,000円
3人世帯	3,740,000円	2,452,000円
4人世帯	4,390,000円	2,970,400円
5人世帯	5,040,000円	3,492,000円

申込期限は、令和8年2月末日までです。
貸し付けを希望する方は、申請書に必要な書類を添えて、下記のいずれかの受付窓口へ提出してください。
(申請書は下記の窓口でお渡します)

- 申請書の提出先
学校教育課・大正町民生活課・十和町民生活課

【お問い合わせ先】 学校教育課 ☎22-2594



四万十町教育委員会 会計年度任用職員の募集

募集

四万十町教育委員会では、令和8年度の会計年度任用職員を以下のとおり募集します。
登録をご希望の方は以下を確認いただき申し込みをお願いします。申し込みいただいた方を候補者名簿に登録した後、候補者の中から面接を行い、採否をお伝えします。
なお、会計年度任用職員の業務は行政事務などの補助が主となります。
また、名簿への登録は採用をお約束するものではありません。予めご了承ください。

- 必要書類 ▶必要事項を記入した申込書および履歴書
▶運転免許取得者は、運転免許証の写し
▶資格などを必要とする職種については、資格を確認できる書類
※申込書・履歴書は教育委員会、大正・十和各地域振興局町民生活課に備え付けています。
※履歴書の職歴欄は本町での職歴(旧町村を含む)があれば詳細に記載してください。
- 提出先 教育委員会、大正町民生活課、十和町民生活課
- 受付期間 1月9日(金)～30日(金) (土・日・祝日など閉庁日を除く) ※2月1日以降も随時申込可能です
8:30～17:15まで(12:00～13:00までを除く)
- 面接日時 2月中旬予定 ※該当者へは別途通知
- 任用期間 令和8年4月1日から令和9年3月31日までのうち任用を要する期間(最長1年間)
- その他 ▶名簿の有効期間はお申し込みいただいた日から令和9年3月31日までとします。年度当初に採用とならなかった場合でも、年度途中(有効期間中)に採用となることがあります。
▶申し込み前に、希望職種の業務内容、名簿登録にあたっての資格要件などを町ホームページからご確認ください。
※ホームページをご覧になれない方や不明な点がある方は、下記までご連絡ください。

●募集および登録する職種

所管課	職種	勤務時間・勤務日数	募集人数
学校教育課	学校校務員(障がい者枠のみ)	7時間・月21日	1名
	部活動指導員	業務内容による	若干名
生涯学習課	図書館・美術館運営補助員	7時間・月21日	若干名
	図書館・美術館運営補助員(障がい者枠)		1名



四万十町HP

お問い合わせ先

学校教育課 ☎22-2594
生涯学習課 ☎22-3576



クールチョイス

脱炭素社会の実現のため、一人一人のライフスタイルの転換が重要です。冬本番!! 窓に断熱シートを貼ったり、厚手のカーテンを使ったりして、暖房効率を高め寒い季節を快適に過ごしましょう。

【お問い合わせ先】 環境水道課 ☎22-3119

申告書の書き方が分からない方は
申告相談会をご利用ください。



令和8年 税の申告相談会日程

大正地域、十和地域、窪川地域の順に行います

月日	対象住所名(地区名)		会場
	午前(9:00~12:00)	午後(1:00~4:00)	
2月12日(木)	江師・小石・芳川・西ノ川・木屋ヶ内・下道	大正大奈路・大正中津川・下津井	きらら大正
13日(金)	打井川・上宮・弘瀬	大正北ノ川・市ノ又・烏手・相去・大正(轟崎・つづら川)・瀬里・希ノ川・上岡・下岡	
16日(月)	大正(大正橋から南町)	申告未済者(大正地域)	
17日(火)	十和川口・地吉	大道・戸川・小野・久保川	十和体育館
18日(水)	昭和	河内・大井川	
19日(木)	十川・古城	広瀬・井崎	
20日(金)	里川・浦越・茅吹手・津賀・野々川	申告未済者(十和地域)	
	志和		
24日(火)	興津		興津出張所
26日(木)	檜生原・折合・南川口	寺野・秋丸・家地川・野地	四万十町 農村環境 改善センター 多目的ホール
27日(金)	日野地・上秋丸・窪川中津川・壱斗俵・市生原	米奥・東北ノ川・作屋	
3月2日(月)	中村・勝賀野・川ノ内・七里(志和分・西ノ川・柳瀬)	七里(小野川・本在家・越行・影山・三滝・沖代)	
3日(火)	向川・数神・奈路	弘見・飯ノ川・志和峰	
4日(水)	八千数・藤ノ川・親ヶ内・本堂	黒石・与津地・平野・道徳・土居	
5日(木)	床鍋・影野・魚ノ川	奥呉地・下呉地・替坂本・六反地	
6日(金)	仁井田(神有、本田、辻の川、浜ノ川を含む)・小向・平串・富岡・中ノ越	根元原・東大奈路・西川角	
9日(月)	口神ノ川・中神ノ川・奥神ノ川・仕出原	大井野・宮内・根々崎・東川角	
10日(火)	高野・若井川・峰ノ上・見付	金上野	
11日(水)	神ノ西・窪川・西原・若井・天ノ川・大向	茂申町・本町・新開町	
12日(木)	古市町・榊山町・東町	香月が丘	
13日(金)	北琴平町・琴平町	申告未済者(全地域)	
15日(日)	申告未済者(全地域)		
16日(月)	申告未済者(全地域)		

お問い合わせ先 税務課 ☎22-3116

税の申告相談会が始まります

2月12日(木)~3月16日(月)まで

今年も町県民税・国民健康保険税の申告時期が近づいてきました。申告した内容は、町県民税や国民健康保険税の課税資料となるほか、各種行政サービスの資料となります。事前に収支などの資料を整理して、スムーズな申告にご協力をお願いします。

Q1 申告が必要な収入は？

令和7年1月1日~令和7年12月31日までに生じたすべての収入を申告する必要があります。
※申告期間前および申告期間中は、本庁税務課・各地域振興局での申告書の作成はできませんのでご了承ください。

Q2 申告に持っていくものは？

マイナンバー(個人番号)確認書類

- マイナンバーカード
 - 通知カード
 - 住民票の写しまたは住民票記載事項証明書(マイナンバーの記載があるもの)
- いずれか1つ

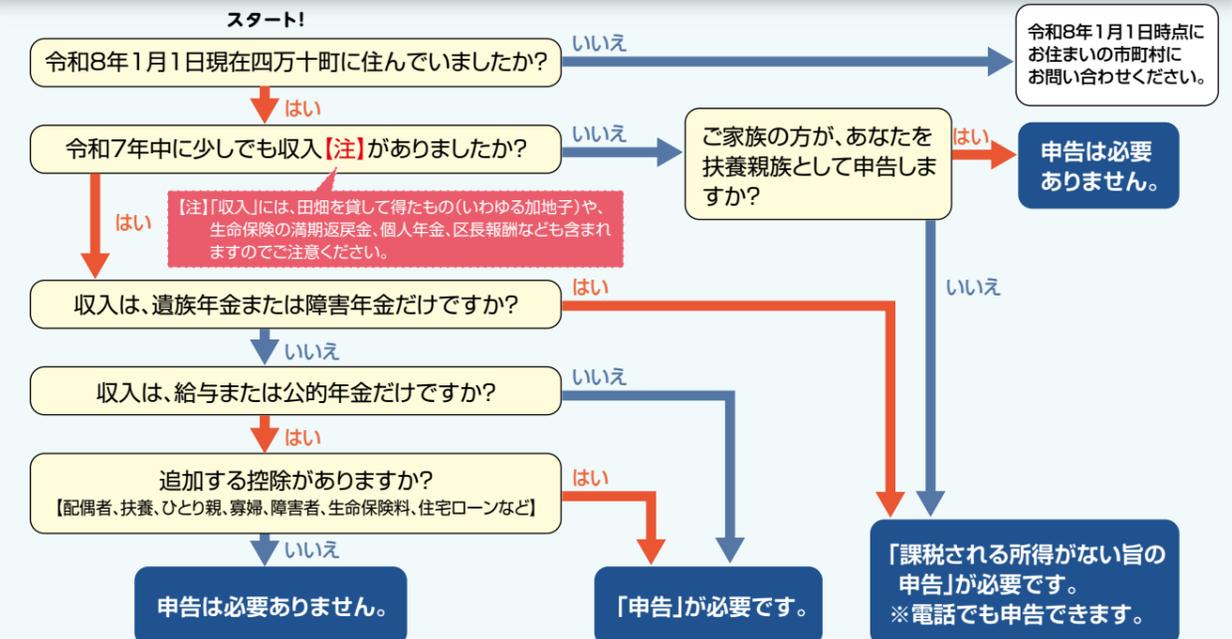
本人確認書類

- (マイナンバーカードをお持ちの方は必要ありません)
- 運転免許証・パスポート・身体障害者手帳
 - 資格確認書または資格情報のお知らせ
 - 年金手帳など

- 昨年の収入・経費の明細・領収書など
 - 源泉徴収票
 - 本人口座情報が分かるもの(通帳やカードなど)
 - 営業・農業などの収支内訳書または帳簿
 - 税務署からのお知らせハガキなど
 - 各種控除を証明する書類(生命保険、国民年金保険料、医療費控除の明細書など)
- ※申告会場では、感染症防止対策としてマスクの着用をお願いします。

かんたん 申告チェック

次の質問に順番に答えていくと、あなたが町県民税の申告が必要か判断できます。なお、税務署に所得税の「確定申告書」を提出した方は、町への申告は必要ありません。



この申告チェックは、簡易的なものなのでこのパターンに当てはまらない方もいます。また、国保加入者の世帯に未申告の方がいると、正しい軽減判定を受けられない場合があります。申告が必要かどうか不明な場合は、税務課までお問い合わせください。

読書感想画・読書郵便作品展

イベント

秋の読書週間に町内の小中学生から募集した読書感想画と読書郵便の作品を、下記の場所に展示します。ぜひ子どもたちの作品をご覧ください!

- 開催期間 1月10日(土)~2月13日(金)
- 入館料 無料
- 場 所 【窪川地域の児童生徒の作品】
四万十町役場西庁舎1階 ふれあいホール
7:00~19:00 ※最終日のみ16時まで
- 【大正・十和地域の児童生徒の作品】
四万十町立図書館 大正分館
火曜日~土曜日9:30 ~18:00
日曜日9:00~17:00 ※最終日のみ12時まで



お問い合わせ先

四万十町立美術館 ☎22-5000

LINE

地域の情報や
災害情報を配信



YouTube

町の取り組みや
地域資源映像を配信



Instagram

#しあわせしまんとせいかつ
で町内の魅力を配信



note

町内の飲食店や
地域の取り組みを配信



四万十町の魅力を
発信中!



藤ノ川

うじはら しき
氏原 織来さん

令和7年7月10日生まれ

スクスク大きくなってね~

(有陽・愛より)



3歳頃までのお子さまを募集しています!応募はこちらから →



【お問い合わせ先】
企画課 ☎22-3124

相続登記無料相談会

イベント

高知県司法書士会では、2月を「相続登記はお済みですか月間」として、2月中は県内各会員事務所で相続登記に関する無料相談をお受けしております。

また、月間に先立ち、下記のとおり無料相談会を開催します。

昨年度から義務化された相続登記の申請に関することをはじめ、遺言や遺産分割協議など、相続登記手続き全般についてお気軽にご相談ください。

- 日 時 1月31日(土)10:00~13:00
- 場 所 四万十市社会福祉協議会
(四万十市右山五月町8番3号)



高知県司法書士会HP



お問い合わせ先

高知県司法書士会 ☎088-825-3143

巨大地震に備える講演会

イベント

地震調査研究推進本部・高知地方気象台主催の「地震本部地域講演会」が高知市で開催されます。

地震の専門家などによる講演のほか、会場では南海トラフ地震など関連のポスター展示も予定しています。ぜひご参加ください。

- 日 時 2月8日(日)13:30~16:30(予定)
- 場 所 高知県立県民文化ホール グリーンホール
(オンライン配信も予定)
- 入場料 無料
- 申込方法 2月4日(水)までに二次元コードより申し込みください(定員に満たない場合は、当日参加可)



申し込みはコチラ

お問い合わせ先

地震本部地域講演会事務局
(株建設技術研究所内)
☎03-3668-1342

四万十ふくふくまつり

イベント

「障がいのあるなしに関わらず、四万十町でともに過ごそう、ともに暮らそう」をテーマに、福祉を知るきっかけイベントを開催します。

今年度は、巨大紙相撲力士づくりワークショップや農福連携イベントとして野菜の重さ当てクイズなどを開催します。さまざまな飲食物や雑貨の販売なども企画しています。

皆さまのご来場をお待ちしています。

- 日 時 1月31日(土)10:00~13:00
- 場 所 四万十町役場
東庁舎駐車場、1階多目的大ホール
- 参加費 無料



お問い合わせ先 健康福祉課 ☎22-3115



犬・猫の
飼い方について

生き物を飼う責任を持ち適切に飼いましょう。ペットの立場、近隣の方の視点を客観的に捉え、配慮して飼育することが大切です。ペットの行動に不安を感じたら獣医師へ相談したり、しつけ教室などに参加してみましょう。

お問い合わせ先 環境水道課 ☎22-3119



窪川高校新文化祭

11月22日(土)に開催され、多くの方にご来場いただくことができました。出店事業者様、地域の皆様には多大なるご協力をいただき、心より感謝いたします。四万十町内の高校として、今後も地域を盛り上げられるよう頑張りますので、よろしくお願いします。



高知県立窪川高等学校

Kochi Prefectural Kubokawa High School
〒786-0012 高知県高岡郡四万十町北琴平町6-1
TEL(0880)22-1215・22-1216
E-mail:320118@ken.pref.kochi.lg.jp



Instagramで新文化祭の準備から開催までの様子を発信しています。ぜひ、ご覧ください。

このコーナーでは、県立窪川高校、県立四万十高校、町営塾「じゆうく。」での生徒たちの活動を月替わりで紹介します。

吉良 好雄さん
(寒蘭愛好家)



今年もきれいな花を

細くまっすぐな茎に、控えめな花が5~10輪ほど連なる。寒蘭には、山野の気配を感じさせる凛とした美しさがある。

「毎年、初夏に新芽が出てくるのが楽しみで。青いのから白のから桃色、いろんな種類があって、それをじーっと見るわけです」。土佐愛蘭会窪川支部の支部長を務める吉良好雄さんが笑顔で話す。栽培歴40年超のベテランだが、「満足いくように育てるのはなかなか難しい」と控えめだ。

27歳の時、自宅がある野地地区の知人に誘われて栽培を始めた。「当時は集落の人がけっこう作ってたんですよ。縁側に鉢を並べてね」。しばらくは個人の趣味として楽しんでいたが、土佐愛蘭会に入ってから鉢の数を増やし、展示会にも出品するように。数ある品種の中でも、緑色の花を咲かせる「太湖」がお気に入りだという。

本業は建築士。若い頃は大工としても現場に立ち、今も町内の施設工事に携わる。忙しい日々の合間に鉢をのぞき込み、生育を確かめる。肥料や消毒、植え替え、日光の管理など、栽培のコツを挙げればきりが無いが、吉良さんは「水

やりが一番大事」と語る。水が少なければ育たず、多すぎれば根が腐る。気温や土の質に合わせ、夏は3~4日に1回、冬は週に1回ほどと頻度を変える。特に夏場は、水温が上がらないように日が沈んでから水を差す。

新芽の次に花芽が伸び、秋から冬にかけて花が開く。丹精込めて育てた鉢を、窪川支部で毎年開いている展示会に並べる。会場では株の無料配布も行っており、「去年もろうた株が咲いたよ」と声を掛けられるのもうれしいという。

会員の年齢層も上がったが「みんな元気で、一鉢でも多く出してくれたら」と吉良さん。「年がいても続けられる趣味です。目標は、『また今年もきれいな花を咲かすぞ!』と書きちよってください」。



▲会員が育てた寒蘭

町にはこんな waza も

テコンドーで鍛錬! 池田 煌さん(写真右)、宮地 蓮さん 窪川中学校3年

スポーツ武道団体「蹴合術 和蹴会」の須崎道場で、テコンドーの練習に励んできた。動きのかわささが魅力で、「きれいに技が決まった時が楽しい」「メンタルも鍛えられました」と2人。池田さんの得意技は「カウンター」、宮地さんは「上段蹴り」という。

こだわりの「技」できらりと光る四万十町の人々を紹介します。ちよいwaza!!は随時募集中!▶



未来の waza!!



そこに 学校があった。

休廃校の歴史

興津中学校 (上)



「学ぶより働く」が是とされた時代

興津小学校が修道学舎という名で開校した明治7年から12年後、明治政府は「中学校令」を公布した。これがこの国の中学校制度確立への第一歩である。しかし、当時は「まずはすべての子どもを学校へ」が最優先であり、小学校教育の充実が急務だった。中学校については、ある程度成長した子どもには、中等教育の必要性よりも労働力として期待せざるを得ないという国民生活の実状もあり、その制度確立は二転三転した。

さて、まだ中学校制度が確立しきっていなかった頃「今という中学生って当時の何年生くらいか？」となると、小学校が尋常科4年、高等科4年製の制度下でいえば、高等科後半の児童がそれに当たるであろうか。明治27年、管理管轄の変更等によって東又尋常小学校に高等科が置かれた時には興津小尋常科(4年間)の卒業生が、来る日も来る日も険しい坂道を通ったこともあった。しかし、前述のように、この年齢になれば「学ぶ」より「働く」ことが是とされた時代であったため、高等科への進学率はそれほど高くはなかった。高等科が自由制で、義務教育ではなかったことも大きな理由であった。

誰もが中学校で学ぶことができる時代に!

中学校が義務教育となったのは、第二次大戦後の学制改革によって教育基本法と学校教育法が施行され「六・三制」となった1947(昭和22)年のことである。両法が施行されたこの年「中学校は小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて中等普通教育を施すことを目的とする」という教育目的が高らかに掲げられ、男女共学の新制中学校が、同年ここ興津にも誕生したのである。

興津村立興津中学校の最初の卒業生は、昭和21年度興津小学校高等科卒業生からスライドした中の30名であることが資料からわかる。資料にある名簿には、確かに男女の区別は

ない。誰もが中学校で学ぶことができる時代になんとか間に合った、興津で最初の子どもたちである。「80年前の子たち」に心からおめでとう!と言ってあげたい。

苦勞した教員の確保

戦後の新時代に入り、子どもたちが「もっと学べる場所、学んでよい場所」として船出した興津中学校は、未来が広がる希望そのものであった。そしてそれは、子どもたちにとってはもちろんのこと、地域住民にとっても同様であった。開校2年目には生徒数増加で5学級編成となり、早くも教室が不足する事態に。仕方なく生徒を午前だけのグループと午後だけのグループに分け、交代で登校させるという事態が半年続いた。その翌年には新校舎が落成するのだが、校舎建設にあたっては、生徒たちも足場用の木材を切り出しに行くなどして手伝った。新校舎落成の年には生徒数がさらに増加し6学級となった。また、地区と窪川の街を結ぶバスが開通したのもこの年である。中学校の充実と地区の生活環境の改善は、まるでワンセットのような時代であった。(次回に続く)



新校舎落成とバス開通の祝宴



終戦直後の教員は元軍人が多かった

(いずれも開校記念誌より)

町のうごき

(11月30日)	人	口	前月比	出生	死亡	転入	転出	
男	7,001	-23		男	1	17	8	15
女	7,559	-5		女	1	8	16	14
計	14,560	-28		計	2	25	24	29
世帯数	7,846	-6		(11月中の届出)				

窪川地域 10,396人 大正地域 2,009人 十和地域 2,155人